



志賀高原
ユネスコ
エコパーク

信州 たかやま議会

151号

2025年7月25日

発行／高山村議会

発行責任者／西原 澄夫

編集／議会報編集特別委員会

5月31日、高山小学校の運動会が行われました。
雨の予報でしたが、晴れ間も出て、子ども達の熱戦を後押ししてくれました。
6年生のリレーは手に汗握る熱戦でした！



「議会と村づくりを語る会」 …… 2 - 3

6月定例会 …… 4 - 5

一般質問 9人の議員が登壇！ …… 6 - 10

研鑽を積んで議員力 UP!

(総務文教・福祉産建常任委員会合同視察研修レポート)

北海道沼田町 …… 11

北海道東川町 …… 12 - 13

中学生職場体験 …… 14

議会モニター会議 …… 15

わたしの声 …… 16

議会報告会「議会と村づくりを語る会」を開催しました!

3年目の開催となる今年も、たくさんの皆さんにご参加いただき、ありがとうございました。

開催の様子と、出していただいた主な意見等をまとめました。

今年は、「高山村の住みやすさ」について、様々な世代の皆さんと想いを共有する貴重な機会になりました。

頂いたご意見等は今後、議会活動や議員活動に活かしていきます。

「高山村の住みやすさ」を 皆さんとともに考えました

議会報告会『議会と村づくりを語る会』

今年で3年目となる、議会報告会「議会と村づくりを語る会」を5月11日と18日に開催しました。11日は、第1ブロックが堀之内研修センター、第3ブロックが保健福祉総合センター、18日は、第2ブロックが荒井原ふれあいセンター、第4・5ブロックが保健福祉総合センターで、それぞれ多くの皆さんにご参加いただきました。今回のトークテーマは、「高山村の住みやすさ」をみんなで考えましょう！でした。

高山村の住みやすさと思うこと

- ・静かで落ち着いて生活できる
- ・水道水が旨い
- ・自然が豊か、素晴らしい、景色がいい
- ・車があれば買い物はすぐに行ける(長野市内に近い)
- ・福祉は充実している
- ・農業を営むには気候に恵まれている
- ・健康的に生活できる
- ・小中学校の給食がおいしい
- ・移住してきた人に対して、親身になっていただけ
- ・温泉が近い、沢山ある、無料券がいい
- ・人が優しい、話しやすい
- ・災害が少ない
- ・スポーツ施設が充実している
- ・果物づくりには良好な土地柄である
- ・除雪がゆきとどいている
- ・集落の人情等よい人ばかり
- ・季節がわかりやすい
- ・おむつ補助ありがたい
- ・行政がコンパクトなので話がしやすい
- ・殆ど保育園に入れる(都会)と違う



5/11 堀之内研修センターの様子

住みやすいことを継続するために どうしたらよいか

- ・道の駅など作って村内で買い物ができるように
- ・農作物の販売所を作る
- ・集客効果のある店舗、催しの開催
- ・周囲の家とのコミュニケーションの場
- ・住宅整備、圃場整備、農機リース
- ↓りんご・ぶどう新規就農
- ・何も無いことを売りにする観光をPRする
- ・山林の管理と林業、再生可能エネルギーへの応用
- ・移住者を増やす、戻ってくる人を増やす
- ・果物の高山ブランドを守る
- ・温泉施設等の利用者を増やす
- ・荒廃地を作らない
- ・農業の団地化
- ・地元料理を温泉で出す(ジビエ等)
- ・加工品の開発
- ・温泉の年パスの値段を村民と村外の人で変える
- ・温泉は22時までやる
- ・見晴らしの場所設置↓名物化
- ・農地でも住宅を建てられるようにしてほしい
- ・温泉のPR、CM等



5/11 高山村保健福祉総合センターの様子



5/18
荒井原ふれあいセンターの様子



5/18
高山村保健福祉総合センターの様子

高山村の

住みにくさくと思いつく

- 店が少ない、道の駅など買い物するところがない、少ない
- 高齢者の通院不便
- 若者、子どもが少ない
- 車がないと買い物に不自由
- 教育費、大きくなるほど補助が少ない
- 区費（入区金）が高い
- 高齢者が多く役員のなり手が少ない
- 人に関心がある、良くも悪くもすぐ広がる
- 子どもの遊び場がない、YOU游のアスレチックをもっときれいに
- 地域の人口減により活性化がない
- 産業が少ない 近隣の市町村に就職する必要あり
- 子ども（高校生）の通学にバスの利用が不便、遅い便がない
- バスの最終が早い
- 区の役員が大変
- 高齢化で区内の作業が難しくなりそう

住みにくさく…

住みやすくするのは どうしたら良いか

- 住むところを増やす、村営住宅を増やす
- 村民が村内で働く場所
- バスの便を増やす、バスは大きくなくてよい
- 飲食店を増やす
- 空き家をなくし、若い人に住んでもらいたい
- 企業誘致
- 大きい図書館がほしい
- YOU游ランドをもっと整備して魅力ある公園に
- 須坂インターのイオンには、何かバス等走らせて
- 通学路の拡幅、歩道の整備
- 電柵の管理を村でやってほしい
- 買い物 役場周辺を街として築き上げる
- 若者の移住を増やすために子育てにお金をかけてほしい
- タクシーの利用助成金を考えてほしい
- 子どもが多い村にしましょう

アンケートから

議会からの報告について

- 議会の内容がわかり、良い事なので継続してほしい
- 議会報はわかりやすく、役場広報にない情報が入っているのも面白い
- 今まであまり関心がなかったが、議会に対する関心が少し持てたとが報告されてよかった
- 議会が近くなりました
- 議会報はカラフルでよくまとまっていて読みやすい

ワークショップについて

- 色々な意見（話題）が出ておもしろいが、まとまらない
- 前年と同じような内容だった
- 色々な意見や考えを聞くことができ良かった
- 参加者が少ないので多くする工夫が必要
- 題材を基にいろいろな意見があり、勉強になったところもあった
- 他地区の方の話を聞いたのは貴重な体験だった
- 設問内容を具体的な事柄にした方が話が出やすい
- 全て行政におまかせになっってしまう感じだと思つ



お寄せ頂いたご意見のすべては、議会 HP でご覧いただけます。

◀左の二次元コードを読み取るなどで、お時間のある時にぜひご覧ください。

頂いたご意見は議員全員で共有し、今後の議会及び議員活動に活用させていただきます。ご参加された皆さん、ありがとうございました。

令和7年
6月定例会

住民税所得割非課税世帯臨時特別給付金460万円追加など 一般会計補正予算 **9,389万円** 追加を可決

6月定例会は6月3日から13日までの11日間で開催されました。専決処分した条例の承認2件、専決処分した予算の承認1件、条例改正3件、高山村土地開発公社の解散について1件、一般会計補正予算1件、陳情3件、発議4件、計15件が提案され、全て原案通り可決されました。

一般質問は9名の議員が登壇し、村政課題など20件について質問しました。

一般会計補正予算の内容

地域経済循環創造事業補助金 7,000万円

国（総務省）のローカル10,000プロジェクト交付決定を受けた2事業者への補助

- 「地元の味と自然を満喫する観光拠点創出事業」に対し公費負担分 5,000万円
- 「古民家を活用したTAKAYAMAロングステイビレッジ構想」に対し公費負担分 2,000万円



定額減税不足額給付金給付事業 1,813万9千円

令和6年度からの継続事業
令和6年度の定額減税及び調整給付金の実施に際し、推計値を用いて算定したことによる不足額を給付

住民税所得割非課税世帯臨時特別給付金 460万円

住民税所得割非課税世帯約195世帯に2万円と、その世帯の18歳以下の子どもに2万円を支給（県の価格高騰特別対策支援金事業補助金を活用）

統計調査一般経費に追加 54万9千円

本年10月1日現在で行う国政調査費用
総額417万9千円

不定期
特集

議会を知って みんなで作ろう高山村！

不定期特集の4回目です。
今回は「議員の仕事」についてです。
主にこんなことをしています。



意思決定

様々な会議に出席し、自らの調査・研究に基づき、村の政策に関する質問をしたり意見を述べたりしながら、行政や他の議員と議論し、1人の村議会議員として議案への賛否を表明します。

政策立案・提案

本会議（定例会）で行われる『一般質問』等にて、村長や教育長などの行政執行機関に対して、村政に関する問題提起や政策立案や提案などを行っています。

一般質問

高山村議会の一般質問は、1議員の質問時間を30分とし、1問1答方式で行われます。再質問は時間内であれば、回数制限はありません。（令和7年6月定例会より執行）

全員協議会

重要な課題について、村長や教育長などの行政執行機関から説明を受けたり、議員全員で意見調整を行う場として、「全員協議会」を随時行っています。

調査・研究

村民の皆さんからの意見や、自らの問題意識に基づき、聞き取りや現地に行くなどして調査、確認を行います。
また、各委員会において、先進地への視察研修に行くこともあります。

審議会ほか

高山村独自、もしくは広域的に設置されている数ある審議会において充てられる高山村議会議員としての枠に対し、議員を割り振り、それぞれ責任を持って出席しています。

議案に対する各議員の賛否結果 (○賛成 / ●反対)

議案名	表決結果	久保田雄吉	勝山正弘	滝澤聖	梨本進	沖島祥介	高井央葉	柴田弘男	湯本辰雄	松本茂	山岸秀治	黒岩清道	西原澄夫
承認	専決処分した条例の承認を求めることについて（一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例） 概要：令和7年度から村職員の職名のうち、「主事補」を「主事」に統一したものに改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専決処分した条例の承認を求めることについて（村税条例の一部を改正する条例） 概要：軽自動車税において2輪車の車両区分の見直しなどに伴う条例の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専決処分した予算の承認を求めることについて（令和6年度高山村一般会計補正予算（第7号）） 概要：年度末に国の地方交付税の額が確定、歳入歳出にそれぞれ合計8,311万6千円を追加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案	高山村個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例 概要：住民基本台帳に記録されていない者の宛名番号等を管理するための住登外者宛名番号管理機能を利用するための規定整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	村税条例の一部を改正する条例 概要：地方税法等の改正により、給与所得控除や基礎控除の見直しに伴う条例の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高山村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例 概要：保育内容支援に係る連携施設の見直し（本村に影響なし）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高山村土地開発公社の解散について 概要：高山村土地開発公社の解散と清算終了の確認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	令和7年度高山村一般会計補正予算（第1号） 概要：国の地方創生臨時交付金の計上などを含め歳入歳出にそれぞれ合計9,389万4千円を追加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情	「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書」採択を求める陳情書 概要：義務教育費国庫負担制度を堅持、負担率2分の1に復元	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算増額を求める意見書」採択を求める陳情書 概要：少人数学級の推進、複式学級の学級定員の引き下げ、教職員定数の改善	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情について 概要：学習指導要領の内容の精選、標準授業時数の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議	高山村議会会議規則の一部を改正する規則 概要：一般質問の議員の持ち時間を30分とし、回数制限をなくす改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	義務教育費国庫負担制度の維持・拡充を求める意見書 概要：義務教育費国庫負担制度を堅持、負担率2分の1に復元	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算増額を求める意見書 概要：少人数学級の推進、複式学級の学級定員の引き下げ、教職員定数の改善	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書 概要：学習指導要領の内容の精選、標準授業時数の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

陳情・発議 3件

長野県教職員組合高山単組などからの陳情3件を採択し、文部科学大臣などに意見書を送りました

- ・義務教育費国庫負担制度の堅持、拡充を求める意見書
- ・さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算増額を求める意見書
(上記2件は、義務教育費国庫負担をもとの2分の1に復元すること、さらなる少人数学級推進と複式学級の学級定員の引き下げや教育予算の増額を求めるもの)
- ・「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書
(次期学習指導要領の内容の精選と標準授業時間の削減を求めるもの)

* 「カリキュラム・オーバーロード」とは

学校における教育・学習内容が質・量ともに過多（教育課程の過積載）になっていて、子どもや教職員に過大な物理的・精神的負担がかかっている状態。



せつかくの国の制度、申請漏れがないことを望む

やまざき しゅうじ
山崎 秀治 議員



特別障害者手当の周知方法は

問 特別障害者手当は、重度の障害があり、常時特別な介護が必要な人に、月2万9590円が支給される国の制度。

村でこの手当受給者4人、全国平均の受給割合より低くなっている。この制度についての周知方法は。

手当の申請には医師の診断書が必要、この料金を村が補助し申請を後押しすることを求める。

副村長

この制度の周知は、村ホームページのほか、身体障害者手帳の交付や現況届の提出時に案内し、また要介護4・5の方にはケアマネジャーが相談に乗っている。

医師の診断書作成料金は、1件当たり5千円から7千円程度、ほかにも医師の診断書で採決の可否が決定する事業があるか否かや、近隣自治体も調査し慎重に対応していく。

該当する可能性のある方が申請の機会を逸することのないよう対応する。

公立の児童クラブでも高学年の受け入れを

問 子どもたちが放課後や休みの日に、生活の場として安全に安心して過ごせる学童保育は、働く父母にとって、また児童にとっても大切なもの。

児童クラブへの登録割合は、1年生82%、2年生71%、3年生65%、4年生18%、5年生14%、6年生7.5%で、高学年になるほど登録者数の割合が極端に減少している。児童クラブに預けたいという父母のニーズを十分に受け止め切れていないのではないか。公立の児童クラブでも高学年の受け入れを行うことを求める。

教育次長

子どもがいる家庭のアンケート調査結果からは、高学年になると自宅を過ごすニーズが高まっていることが伺える。高学年の児童は私立を利用していているが定員50名に対して31名の利用。公立の児童クラブは定員と同数の利用があり、高学年の受け入れは難しい。私立は定員割れなので、利用を検討していただきたい。

眺望立地に「道の駅」
未来志向で前進を!

なしもと すすむ
梨本 進 議員



「道の駅」今こそ求められている重要な施策

問 イオンモール須坂の開業で新ル須坂の開業で新たに大きな人の流れが生まれ、本村に迎え入れる工夫と取込む施策が必要。

村民からも特産物直売所や観光PRの場、食事処など設置を望む声大きい。地域と共につくる個性豊かなにぎわいの場として、多機能を備えた複合施設の設置は本村の未来に向けて必要ではないか。

副村長

国交省の「道の駅」は、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能を併せ持つ施設で、全国1230駅、県内54駅が登録。道路利用者へのサービスの提供や防災拠点、子育て応援施設の併設など、地域づくりの拠点として位置付けている。

問 お迎えする拠点、訪れる方々がいつでも利用できる、安心安全な休憩場所の提供が優先的に必要ではないか。

副村長

イオンモール須坂開業はチャンスととらえ、本村におけるの皆さまが気軽に立ち寄れる施設整備を検討したい。

問 直売所や観光情報発信拠点などの複合施設建設には、多額の事業費が予想される。これまで設置計画の調査、研究はされてきたか。

村として農産物等の直売所は必要な施設であり、スピード感をもって具体的な調査、研究を進めたい。早い時期に内容を示したい。

問 北信地域の町村も「道の駅」の施設整備が進められた。地方の地域と地域を繋ぐ「道の駅」設置事業導入を強く望む。

副村長

立地や施設、機能などのほか、財源確保が重要な課題。村民のご意見をお聞きし高山村らしい施設整備が出来るよう検討して参りたい。



3年前に視察・研修した「道の駅南信州とよおかマルシェ」

なんと! 45年後のこの村の総人口は、
2,373人 (村の独自推計では3,050人)

くぼた ゆうきち
久保田 雄吉 議員



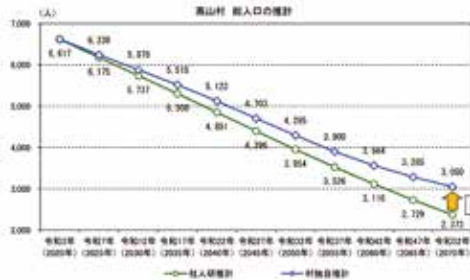
45年後に人口が半減する魅力のない村か

問 この村は、戦争もないのに、45年後に人口が半減してしまうような魅力のない村なのではないでしょうか？

村長

高山村は美しい日本の原風景が残る、大変素晴らしい村であると思っています。広く情報を発信して、移住定住につながる取り組みを進めたいと考えています。

問 今、この村の現状は子供の声があまり聞かれない『沈黙の村』となっている。原因を、しっかりと究明、認識し自覚することが効果的な対策に必要なと思うのですが。



高山村 総人口の推計

問 Uターンで帰ってくる村民が、家をリフォームする場合同居リフォーム促進事業補助金」を開始しており、有効に活用していただきたい。

定住支援室長

村では本年度から「多世帯同居リフォーム促進事業補助金」を開始しており、有効に活用していただきたい。

定住支援室長

農地法上では村の裁量は一切認められていない、村独自で要件を緩和することは困難です。

Uターン者への支援策充実を

問 Uターンで帰ってくる村民が新しく家を建てる場合の「農地を宅地に転用する規制」を柔軟に緩和することはできないか。

村長

人口減少問題の原因を事細かに分析していませんが、一般的には、少子化と高齢化の進行によるもの、都市部への若者の集中などがあげられるかと思えます。

村としては庁内での検討会議や村民のご意見等をお聞きしながら、できることから着実に進めたいと考えています。

高山村の魅力をもっとあげていく施策を!

たかい なかば
高井 央葉 議員



村の人口を維持するために

問 現在行っている移住定住施策の目的と効果、今後の展望は。

定住支援室長

「本村で暮らしたい」と考える方でもお迎えしたいという基本スタイルのもと、移住相談協力店の皆さんにもご協力いただきながら、今後移住希望の皆様に寄り添い、施策の検討を進めていきたい。

見やすいホームページを

問 村のホームページをリニューアルして、必要な情報に、今以上簡単にアクセス出来るようにしてはどうか。

総務課長

現時点でリニューアルする計画はない。現在のホームページはシンプルなデザインで、新着情報の更新も出ているが、情報を探す側から見ると、情報を探しにくい。他自治体のものを参考に、見出しや表現をわかりやすくし、村

内外の皆さんにしっかり伝わるように工夫していきたい。

YOU遊ランドの遊具更新を

問 YOU遊ランドのアスレチック広場の遊具を更新し、今よりもっとたくさんの方の家族連れ、小中学生に遊びに来てもらえる施設としては。

副村長

アスレチック広場は開園から30年余りが経過しており、遊具の更新のみならず、広場全体の整備も一体的に考えていく必要があるのではないかと考えている。今後、運営研究委員会など関係の皆様や村民の皆様からのご意見等を聞きながら、魅力ある広場になるよう検討していきたい。



現在のYOU遊ランドの遊具

スピーディーな行政を!!

かつやま まさひろ
勝山 正弘 議員



『道の駅』の構想計画はあるのか

問 議会報告会等で「高山村は商店が少なく、飲食店が少ない、農産物直売所が無い、働く場所が少ない」と多くのご指摘をいただいている。やはり地域の活性化は必要で、村民や観光客にとっても『道の駅』は必要不可欠と思われる。

①現在、「中山間総合整備事業」は申請が脚下されている。早期に再申請の目的が立つのであれば、多機能的な複合施設の建設も期待できるが、その点はどうか。
 ②J Aの統廃合による「高山共撰所」の移転跡地利用の計画を、村が本腰を入れて進めることが急務と思われるかどうか。

副支庁長
 ①新たに畜産事業者と調整中であるが、現時点では残念ながら再申請ができる状態にないため、総合整備事業としての多機能的な複合施設の建設は困難である。

②「高山共撰所」は須坂市からも近く県道沿線といった立地条件も非常に良いが「J Aなごの」との確認では、当面、移転はないとのこと。よって『道の駅』に固執せず、高山

村営の宅地造成で移住定住などの「新タウン構想」はないのか

問 高山村の半分以下の人口で7年連続で「住みたい田舎ベストランキング1位」の町や国の補助金や地方交付金の利用で、人口増を続けている町もある。成功している事例の共通している点は「行政による攻めの政策」で地域を活性化している点にある。交付金の活用で、移住定住のための宅地造成や村営住宅・集合住宅の建設が必要と思われる。須坂市のイオンモールからも近く通勤圏でベタタウン的な魅力ある『新タウン構想』はどうか。企業の工場誘致や大学誘致などを、地域おこし協力隊と連携して進めてはどうか。

村長

移住定住対策を進めるうえで宅地造成や集合住宅の整備には十分必要性を感じており、庁内でも検討中で、できる限り早い時期に具体的な方向を示したい。地域おこし協力隊の活用も積極的に対応して参りたい。

松川周辺の農地の崩落対策工事を望む

たきざわ きよし
滝澤 聖 議員



松川の護岸崩落の整備を

問 松川に架かる藤沢橋より約200m下流、牧頓原圃場北斜面が崩落している。護岸対策工事が必要と思うが考えは。崩落現場の確認はされているか。

建設水道課長
 対岸から写真撮影で確認を行い、高山村農業集落排水第4処理施設の東側100m付近、小規模な崩落で個人所有の山林である。

問 対策工事の計画は。 **建設水道課長**
 関場えん堤管理者である「須坂建設事務所」では計画は無いとの回答であった。

問 対策工事を行うよりも崩落危険農地の収用をしたほうが、安価に事業を行う事と思うが検討出来ないか。

建設水道課長

これまでに買い上げた事例はないが、崩落の原因や崩落が周辺に及ぼす影響を

把握し、保全対象を特定し範囲の土地を収用することが公共の利益の観点から合理的であると考える。
 土地所有者にお伝えし、引き続き県や関係機関と調整し崩落対策について協議したいと考える。



対岸から撮影した崩落現場と断層

年間 750 ～ 800 万人もの来場者
予想されるイオンモール須坂!

おきしま しょうすけ
沖島 祥介 議員



開業にあたっての対応策は

問 広報活動や誘導看板についてどう考えているか。

産業振興課長

JR東日本と連携した観光宣伝事業、観光協会の広報活動があげられる。

問 千本松にある看板は色あせているが、塗り替えなどの考えは。

副村長

公共サインのあり方の検討が必要。スピード感をもってデザイン、設置場所など、必要があれば補正予算を組み、取り組む。

問 須高3市町村で連携した情報発信は?

産業振興課長

須坂市より、長野市を含めた4市町村での広域的な情報発信ができないかとの打診があり、本村としては願ってもない提案なので、積極的に取り組んでいく。



本村入口にある看板だが、色が褪せてきている現状

高齢者世帯等燃料券交付事業は公平性が確保されているか

問 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業として高齢者燃料券交付事業があるが、「65歳以上の高齢者世帯」に限っており、65歳以下の若者が同居していると支給対象外になってしまう。若者が村に戻ってきたら支給対象外になってしまうのは腑に落ちないが?

村長

今後、国の動向なども注視し、本年度も「燃料券交付事業」を実施した場合、定住促進の観点や、公平性等も含め、検討の余地があるものと考えている。

ふるさと納税制度の取組みの抜本的な見直しを

問 将来に向けての目標金額を設定しているか。この制度の本質を理解して、村長からのお礼の手紙、パンフレットなどを入れて、ファンを作っていくのはどうか。

総務課長

本年度は目標金額を設定できる土台作りを行いたい。関係者と協議して、本村のPRにつながるよう努めていく。

村民を真ん中に置いた検討を

くろいわ きよみち
黒岩 清道 議員



買い物支援バスの試験運行の結果は

群馬県につながる県道整備対策は

問 公共交通では、特に高齢者や学生の足の確保について、きめ細やかな対策が必要である。十月から村の公共交通は大きく変わる予定だが、まだまだ意見交換が必要。高齢者を対象とした買い物支援バスが、3月から5月まで試験運行された。

①買い物支援バスの、利用状況は、利用が少なかつたのでは。
②利用対象者の、条件などの意見や感想はあったか。
③福祉の面からも、本格的稼働の検討の考えは。

副村長

①登録は10名、高井3名・中山6名・牧1名で、70代5名・80代3名・90代2名であった。
②「ありがたい」「以前から望んでいた」「もう少し対象を広げては」の声を頂いた。
③頂いた意見に加え、秋以降の稼働を、協議会において検討を進めていく。



買い物支援バスの試験運行

問 県道大前須坂線は、毛無峠から通行不能区間になっているが、県境の交通量は増している。ひとつの理由として、渋川市から嬭恋村を通る「上信道」の建設が進められ一部開通し、活性化が進むことがある、村の対応は。

①県道大前須坂線の通行不能区間の開通の見通しは。
②毛無峠付近の道路改良はできないのか。
③今後、上信道から高山村へのアクセスや案内の考え方は。

建設水道課長

①毎年継続的に要望をしており、近年の災害対策も踏まえ、国立公園内であり予算もかかるが、必要性について検討していきたい。
②現時点において改良計画はない。
③観光客などのアクセス向上が期待される道路であることから、効果的な案内方法などを研究していきたい。

物価高騰対策を問い、
平和憲法を守ろう

ゆもと たつ お
湯本 辰雄 議員



燃料券交付を

問 今日、燃料のほか米などあらゆる品目の値上がが続いている。一方、3月の一人当たり実質賃金は2.1%減少で3か月連続マイナスである。

①ガソリン・灯油の燃料券の交付を。②水道基本料の無料化を求める。

村長

国では燃料価格高騰のため、5月22日から価格引き下げ措置を実施しており、段階的に効果が表れると期待する。①燃料券交付は慎重に対応したい。②2年前は国の交付金を活用して水道基本料の減免を行った。国の動向を注視したい。

道路管理の方法は

問 県道二ツ石地域では、歩道縁石の高さが8センチのところがあるが、周辺は15センチである。車が縁石を乗り越え易いので危険である。①道路の異常発見の改善方法。②村内の道路管理はどうか進めているか。

建設水道課長

①村には県道7路線、村道819路線があり、日々パト

9条改正に反対を

ロールにより的確に維持管理している。応急処置できるところはその場で行う。②地区振興計画によって、道路改良カーブミラー設置など、計画して改善する。

問 今年の8月15日は終戦から80年になる。先の大戦では、2000万人以上のアジア及び日本国民の生命を奪った。現憲法は「2度と戦争は起こしてはならない」との決意で施行。しかし自民党の憲法改正草案では、9条2項に「国防軍を保持」を入れ「紛争は力で対処する」とした。

村長には「9条変更の動きに反対の意思表示を求める。」

村長

憲法前文には「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないよう」にする」としている。憲法改正は国会において議論を深めることが大切と思う。私は、どうすれば平和を守り続けることができるか、国民の一人として考えていきたい。



長崎市 平和祈念像

議員の質問持ち時間30分以内

一般質問の質問回数の制限をなくす
～6月定例会から実施～

議会では、一般質問についてこれまで議員の質問と村長等の答弁を合わせて概ね1時間、発言回数は3回以内としてきました。これを今定例会で会議規則を改正し、質問時間は議員の質問持ち時間30分以内とし、発言回数の制限をなくすこととしました。



再質問への答弁を行う藤沢村長

改正の理由

議員側：一項目の中に質問内容が複数以上の場合、再質問ですべてをしようとするためとめにくさがある。質問回数（3回まで）が気になる。

行政側：再質問で質問内容が複数以上の場合、すべてにわたって正確な答弁を行うことが難しい。

議員も行政も問題を感じていたため、今回他自治体の例も参考に改正を実施しました。

実施しての議員の感想

- ・再質問が一問一答方式を徹底したため、答えが導き出せるようになった。
- ・何度も質問出来てよいと感じた。
- ・内容が深められてよかった。
- ・再質問以降は、自分が内容を深めて理解していないと同じ質問内容になってしまふ怖さがある。
- ・質問回数に制限がなくなり、いつもより長い一般質問となった。
- ・聞きたい質問はしただけでよかった。
- ・再質問の答弁が短くなったので、考える時間も短くなり、少し忙しくなった。
- ・質問持ち時間30分はあまり気にならなかった。

けんさん 研鑽を積んで議員力 UP!

総務文教・福祉産建 常任委員会合同視察研修レポート①

北海道視察研修 1 日目は沼田町へ

利用者目線の施策や施設づくりが印象的な町だった

5月13日(火) in 北海道沼田町

住みたい田舎7年連続総合1位の沼田町に学ぶ



朝の情報番組で放映された

『住みたい田舎ランキング シニア世代・子育て世代・若者世代・単身者各部門1位(北海道エリア)』の沼田町は、面積283.35km² 人口2739人 世帯数1423世帯(本年4月末現在) 6年度の転入者は115人。
冬には2m近く積もる豪雪地帯、冬だけ降り積もっても、万全の除雪体制との職員の説明が印象的だった。
農村型コンパクトエコタウン構想により、駅周辺を中心に半径500m圏内に学校、診療所、高齢者施設、スーパー等を集約、高齢者でも歩いて暮らせるまちづくりを進めている。
「ワンストップサービス」を目指し、移住定住支援室を設置。子育て支援の申請や結婚資金支援、住宅購入補助金



沼田町庁舎にて施策の説明を受ける

新規就農支援の手続きなどの窓口を一本化しサポート強化をされている。

新婚の子育て世帯には、最大570万円の住宅奨励金制度が目を引きほか、創業支援に100万円の補助や、小・中高のいる世帯には毎年60キロのお米がプレゼントされる。また町内での同窓会には10万円の補助など支援メニューは多彩で、町のPRやUターン増加策としている。

お話を聞いた後は、医療、介護、子育てが集約された施設『暮らしの安心センター』【あるくらす】を視察した。家族連れもくつろげるカフェスペースを設け、デイサービスセンターと無料で使えるトレーニングルームを併設、さらに地域医療の拠点「沼田厚生クリ

ニック」も併設され、内科、外科、皮膚科、人間ドックも受診可能で、住民が安心できる充実した施設と感じた。



「暮らしの安心センター」
充実の医療施設が併設されている



あたたかな雰囲気の施設内部

沼田町も急激な人口自然減少に歯止めをかけるべく、各世代への魅力ある支援策を準備し、転入者増加に積極的に取り組んでいる様子がかがえた。
移住希望者、相談者へのワンストップサービスの重要性を強く感じた研修となった。

(福祉産建常任委員長 梨本進)

総務文教・福祉産建 常任委員会合同視察研修レポート②

北海道視察研修2日目は東川町へ
人口増加に繋がる様々なしなかけをじっくり視察した

5月14日(水) in 北海道東川町

「攻める自治体」東川スタイルに学ぶ

5月14日、午前9時より東川町行政視察研修を行った。

今回の研修では、「なぜ過疎の町から復活できたのか」「どういった交付税の活用をしているのか」等を重点に研修ができたかと臨んだ。

東川町より菊地町長、副町長、担当課長3名、議会より能登議長、副議長、事務局2名と大勢の方々にご出席頂き、まず町の概要、活性化に向けた政策や取り組み、地域ブランドの構築、新たな雇用の創出、定住人口の増加など、各施策についての説明を受けた。



東川町庁舎内にて、施策等説明を受けた



東川町役場前にて

東川町は北海道のほぼ中央に位置し、北海道第2の都市である旭川市に隣接している。町の東部は日本最大の自然公園「大雪山国立公園」に属しており、鉄道、国道、上水道の三つの道がないという特殊な環境の自治体である。そんな東川町は、30年間で人口がゆるやかに伸び、平成7年頃には70000人台だった人口が、現在は86000人と約2割程人口が増えてきた。

40年前から「写真の町」を軸にしたまちづくりを進め、現在は「東川町国際写真フェスティバル」や、全国の高校生を対象とした「写真甲子園」、また「国際交流写真フェスティバル」など、様々なイベントを行っている。また、家具の町として、地場産業の発展と「ほんもの」の贈り物を通じた施策として、生まれてきた子どもに名前入りの椅子を贈る「君の椅子」事業、中学校では3年間使い込んだ椅子を卒業記念として持ち帰る「学びの椅子」という仕組みなどを行っている。

その他、様々な施策についての説明を受け、質疑等に対応いただいた後は、各施設の見学もさせてもらった。



「君の椅子」事業
東川の手作りの椅子を通じて子どもの成長を温かく見守りたい、そんな願いが込められている贈られる椅子は、毎年選定されるデザインを東川町内の工房で製作される

けんさん 研鑽を積んで議員力UP!



全国初の公立日本語学校

分譲地「グリーンビレッジ」は美しい街並みを実現するため、細かい規定を設けており、実際に美しい街並みであった。

複合交流施設「せんとびゅあ」の2階には全国の公立日本語学校があり、約300名の生徒が海外から学びに来ている様子も見ることができた。

全国的にも有名な東川小学校は、スケールの大きい平屋建てで、廊下は270mもあり、オープン教室の学びの場として、400名を超す子どもが学んでいる。壁がない解放感あふれた教育環境で、小学校を見て移住を決めた方も数多くいらつしやるとの事。学校敷地も4ヘクタールと北海道ならではの広々とした開放的な環境だった。



グリーンビレッジの様子

「暮らしの共生エリア そらいろ」、温泉複合施設「きとろん」、また全国的にも珍しい公設民営化企業誘致「三千櫻酒造」等も見学し、午後3時まで視察研修を行った。

東川町は、個人的に3年程前NHKで放送された『「映える町」移住者が多い東川町』を見て、いつか機会があったら視察したいと思っていた。そんな折、昨年7月の須高3市



暮らしの共生エリア そらいろ内観
小さな子ども達も安心して遊べる屋内施設
この他にキッチンやトレーニングルームもある



暮らしの共生エリア そらいろ外観

町村合同議員研修会において「攻める自治体 東川町」と題して、長野県立大学 中村稔彦先生の講演をお聞きしたことをきっかけに、議員皆視察に賛同し実現した。

東川町は職員に「東川スタイル」がある。それは、『予算がない・他でやっていない・前例がないからやらない』という選択にはなにも生まれない』を原点とし、普通交付税、特別交付税、地方債、国庫支出金など上手な財政運営で取り組んでいる極めて積極的な姿勢の自治体であった。今回の視察研修はそういった意味でも、非常に前向きになる視察研修であった。

(総務文教常任委員長 沖島祥介)



東川小学校外観 町の中央部にある平屋建ての広々とした小学校
この他に3つの小規模の小学校がある

今回の視察研修を通じて

全国から注目を浴びている、成功事例の町を視察でき、高山村も学ぶことが多くあると感じました。特に交付税の活用により、地域の活性化が図られている様子が参考になりました。

(勝山正弘)



温泉源泉の現況を視察

6月12日(木)

福祉産建常任委員会 現地調査報告

参加者

委員等9名

産業振興課職員 3名

湯守 1名

蕨温泉新源泉の掘削予定地の確認と山田温泉及び奥山田温泉源泉の現況調査を行いました。

蕨温泉の新たな源泉掘削予定地は、すぐ近くの道路沿いで、掘削工事や維持管理が容易な場所と言えます。



蕨温泉ふれあいの湯から50mほど南の農道沿い

山田温泉は、わなば源泉と元湯源泉とを合流させ、山田温泉街へ約1.5km引湯しています。

二つの源泉は松川沿いにあり、土砂崩れや雪崩等が多く、引湯配管の維持管理は困難を極めます。修繕作業には大きな費用と安全の確保が課題で、早急に抜本的な改善策が必要です。



谷下まで徒歩20分
作業道が未整備で危険を伴う

奥山田温泉の源泉は松川沿いにあり、標高差350m上の山田牧場に引湯しています。

開湯200

年を超える歴史の中で発展してきた山田温泉郷の貴重な源泉資源を、将来に渡って守り続けることが重要と認識しました。



奥山田源泉 どの設備も劣化が著しい

(福祉産建常任委員長 梨本進)

中学2年生

職場体験学習で議会に

5月22日(木)

今回、初めて中学2年生の職場体験で、議会に3人の中学生が来てくれました。

この日は、議会一般質問の通告書のメ休日だったため、その受付業務を手伝ってもらったり、同じく職場体験が行われている村の施設へ行って写真撮影をさせてもらいました。また、議会のことを中学生にも分かってもらいたいと作成中の「議会のしおり」を見てもらい、より読みやすいものにするためのアドバイスをもらったりしました。



活発な意見交換ができた



同じく職場体験を行っていた、たかやま保育園や、定住支援室での様子を写真撮影させてもらった
(撮影：中学生)

今回、私達議会でも初めての機会でした。何をしようか、どうしたら中学生から意見を出してもらえるかなど、手探りの中、お話をさせてもらったり、中学生が思っていることを聞かせてもらったり、大変有意義な時間でした。

中学生からは、「議員という仕事に興味がいいた」「人の役に立てるような仕事につきたいと思った」「楽しく体験出来た」などの感想をもらいました。(高井央葉)

令和7・8年度 議会モニターが決まりました

4期目となる令和7・8年度の議会モニターさんが決まりました。今回も、男女のバランスも良く、年齢も高校生から60代までの様々な方にご応募いただきました。

議会がどんなことをしているのかを知っていただき、議会が抱える問題などを議員と一緒に考えていただきながら、より良い村づくりに向かって行けたらと思っています。

モニターの皆さんには、年に3回程度（任期2年間で6回程度）お集まりいただき、要望もお聞きしながら、新しいことも考えていけたらと思います。

これから、どうぞよろしくお願いいたします。



第1回 議会モニター会議開催！

令和7年6月29日(日)



議場、全員協議会室、委員会室など、議会で使っている3階の部屋を見学してもらった

6月29日(日)、新しくモニターになられた皆さんにお集まりいただき、第1回目の議会モニター会議を開催しました。

1回目ということで、自己紹介をして、議会モニター制度や議会についての簡単な説明をした後、役場庁舎3階の議場や委員会室などを見学していただきました。

最初は皆さん緊張した様子でしたが、見学をしながらお話ししたり、ざっくばらんな質問機会を設けたりしながらの会議となりました。

最後に議会からモニターさんにいくつか質問をさせていただきました。その結果をP16の「わたしの声」にまとめましたので、ご覧ください。

☆新しいモニターさんに聞きました☆



●議会報の内容や構成についてのご意見を

●議会報を読む頻度はどのくらいですか？

毎号読んでいる…… 3人
ときどき読んでいる…… 9人
…… 1人
読んでいない…… 0人
存在を知らない…… 0人

- 住みやすい村づくりのコーナーを作る
- 意見↓計画↓進捗、見やすく
- 読みやすくなった
- 色が工夫されていて、並びも良く、分かりやすい
- あまり興味のないところは見ないことが多い
- ページが多いので、もう少しまとめると読める
- シンプルにまとめられていて読みやすい
- 「くだけた」ページがあっても

●議会にもっと知ってほしい課題や要望は

- 女性や若い人達がより村政に関わりやすい環境づくりをして欲しい
- 消防団員のなり手不足の深刻化、負担について

- 野良猫の対策について
- お米の購買意識調査
- 村民の食料安全保障
- 空き家、遊休田畑の問題
- 人口減、少子化
- 観光、おみやげ
- オーガニック給食
- 公共交通、スクールバスの課題
- 生理用品の設置
- 通学路に公衆電話設置の検討を

●議員の活動に関して、どんな情報があると、関心が持てますか？

- 生活に寄り添った内容
- より具体的な活動内容
- あまり表立って見えない事
- 高齢化社会の事
- 議員の1日の動きなど
- 議員の簡単な略歴
- 議員の個別な活動について
- 他の自治体との協力について

●今後の活動に対するの抱負

- しつかりと意見を伝えます
- 活動を通して、村の課題や展望を知りたい
- 積極的に参加していきたい
- 知識を深めて意見できるようにしていきたい
- 雁田山の採石場の見学
- 議員の魅力を伝えたい



編集後記

間もなく第2次世界大戦の敗戦から80周年の8月15日がやってきます。我が国では憲法9条で非戦を誓いましたが、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルによるガザへの爆撃、アメリカによるイラン核施設への攻撃。毎日何人の人々が亡くなったたり負傷したりしているのでしょうか。早期の終結を求めます。

7月20日投票で参議院選挙が行われました。明るい未来が描ける国になるよう、悔いのない投票をされましたでしょうか。

さて、「議会と村づくりを語る会」は3年を迎え、出席者から貴重なご意見を頂戴していますので、今後の議員活動に活かしていきたいと思えます。

今議員の任期は9月までですので、私たちが編集する議会報は最後となります。ご意見をお寄せいただいた方々に感謝申し上げます。

梅雨明けとともに猛暑の日々です。熱中症に気をつけていただき、皆様のご健勝をお祈りいたします。

(湯本辰雄)

発行責任者

議長	西原 澄夫
議会報編集特別委員会	
委員長	湯本 辰雄
副委員長	高井 央葉
委員	山崎 秀治
委員	梨本 進
委員	勝山 正弘

発行/長野県高山村議会
編集/議会報編集特別委員会
TEL (026) 214-9763
印刷/株式会社

次回定例会は **8月26日(火)**
開会予定です

本会議及び委員会の傍聴ができます。
日程が決まり次第、村ホームページ
でお知らせします。